

競技上・審判上の注意

平成 31 年 4 月 1 日より競技規則等が変更になりました。詳細は別紙を参照して下さい。

1. ID カードについて

ベンチおよびコーチ席に入る際は、監督（赤）・マネージャー（黄）・外部コーチ（緑）を必ず首から下げて下さい。ID カードは受付で監督・コーチ・マネージャーに配布します。帰る際は本部席まで返却をお願いします。

2. 服装について

(1) 監督・コーチ・マネージャー

- 公認審判員規定第 3 条第 5 項（6）に定められているとおりの服装で試合に臨んでください。「チームユニフォーム・シャツ・ポロシャツ・ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチスタイル、パミュダ、ショーツ、スリッパとサンダルは禁止とする。なお、適否判断は大会レフェリーに委ねられている。」
- 室温が高ければハーフパンツなど短いズボンも可とします。
- ふさわしくない服装でベンチやコーチ席に入っていた場合は、着替えや退場をお願いする場合があります。

(2) 選手

- （公財）日本バドミントン協会の検定合格品であるユニフォーム、アンダーギアを着用してください。背面には学校名と選手名が明記されたゼッケンをつけてください。
- マッチをする際は、シャツをパンツまたはスコートの中に必ずしまっただけでプレーしてください。
- ユニフォーム（上下）から著しくはみ出すようなアンダーギアの着用は認めません。

3. ベンチについて

- 団体戦 団体登録選手および ID カードを身に付けた監督・マネージャー・外部コーチの中から各コート 2 名
- 個人戦 ID カードを身に付けた監督・マネージャー・外部コーチの中から 2 名
- 外部コーチは、担当する学校および選手が試合を行う時のみベンチまたはコーチ席入りを可とします。
- 選手がエンドを替える時はベンチも一緒に交代して下さい。

4. コーチ席について

- 原則として ID カードをつけた外部コーチのみの利用とします。ただし、複数の教師が引率している学校は、マネージャーの教諭も利用可とします。
- ゲーム中またはゲーム間のインターバル時のみ選手がいるコートまで行き、コーチングができることとします。ただし、サイドコーチができるのは一度に 2 名までです。
- 選手の試合終了後は速やかにアリーナ内から出るようにして下さい。

5. 試合前の練習について

- 団体・個人ともに選手はすぐに試合ができる服装（ユニフォーム・ゼッケン）で来て下さい。
- 団体戦は全ての試合において挨拶後に 3 分間ずつ練習を認めます。主審の合図により学校ごとに 1 コートずつ使って行って下さい。トーナメント表で上に記載されているチームは、1 コートで試合を行う場合は先に、2 コートを使って行う場合は番号が小さい方のコートで練習して下さい。
- 個人戦は試合のコールがされてから主審が来るまでの間とします。練習相手は、シングルスは線審を行う者が対戦相手、ダブルスはパートナーとします。

6. 団体戦について

- どちらかのチームが初戦の場合は第 2 複まで行います。勝敗が決した後もメンバーチェンジは認めません。
- 準決勝以降から 2 マッチ先取とし、第 2 複は第 1 複または単のどちらか先に終わったコートで行います。ただし、第 1 複・単・第 2 複のうち、どちらかのチームがいずれか 2 ポイントを先取した時点で試合を打ち切ります。
- 1 回戦より 2 コートの並行試合で行います。ただし、進行状況により 1 コートのみを使用して試合を開始し、隣のコートが空いてから並行試合を行う場合や 3 試合並行して行うこともあり得ます。

7. 審判について

- 団体戦は両校の相互審判、個人戦は敗者審判制を採用します。個人戦の主審は敗者を連れて本部席まで戻ってきてください。なお、個人戦 1 回戦の主審は本部で割り当てます。
- 得点係は主審校から、線審は選手の当該校から 1 名ずつ生徒を出して下さい。また、線審席は対角線に設置します。
- 次の試合は、敗者監督による審判とします。（団体：準決勝～、個人戦シングルス：準々決勝～、ダブルス：準決勝～）その直前の試合に負けた学校および選手の監督は、試合終了後に本部席までお越し下さい。

【敗者監督による審判で行う試合】

団体：BT/GT9～ 個人戦 シングルス：BS/GS 41～ ダブルス：BD/GD21～

【敗者監督が次の試合の審判にあたる試合】

団体：BT/GT5～8 個人戦 シングルス：BS/GS33～40 ダブルス：BD/GD17～20

- (4) 監督が主審をできない場合はマネージャー（教師）が当該校の外部コーチが行って下さい。
- (5) 困った場合や疑問な点・不明な点が出た場合は、勝手に判断せずレフェリーを呼び、指示を仰いでください。

8. (公財)日本バドミントン協会競技規則 第16条について

- (1) プレーの継続(認められているインターバル以外で体力や息切れの回復などによる遅延行為など) 不品行や不愉快な振る舞い(審判員や観客に対し横柄な振る舞いや下品で無礼な態度、言動、ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くとか、耳障りな掛け声や叫び声を発するなど競技規則を超えた行動) に対して厳正に対処します。
<第7項の履行 (1 警告) (2 フォルト) (3 限界を超えた場合は失格)>
- (2) 2項により、すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になった時、60秒を超えないインターバルと、第1ゲームと第2ゲームの間・第2ゲームと第3ゲームの間に、120秒を超えないインターバルを認めます。インターバルの終了20秒前にはコートに入ってください。
- (3) 試合中の水分補給は認めますが、そのためだけのタイムの要求は禁止です。汗拭きなどを許可された時等に速やかに行ってください。

9. 試合間のインターバルについて

- (1) 各種目とも、試合が連続する場合は、最低10分間のインターバルをとります。

10. 試合中のサイドコーチ(助言)について

- (1) インターバル時(どちらか一方が11点になった時、または、各ゲーム間)一度に2名まで(監督・コーチ・マネージャー・他選手を含む)が選手のいるエンドに行くことができ、サイドコーチを認めます。ただし、選手をベンチに呼んだり、線審等をしている者がサイドコーチをすることはできません。
- (2) 試合中、選手・コーチ・チーム関係者は、iPad・携帯電話等のモバイル機器を使用してアドバイスやサイドコーチをすることは認めません。
- (3) インプレー(ラリー中)以外ゲームの遅延や相手の選手等を批判するような内容にならないようにして下さい。各選手は、サイドコーチに対しても速やかに次のプレーに入るようにして下さい。

11. コートサイドのカゴについて

- (1) コートサイドのカゴに入れて良い物は、交換用ラケット・タオル・飲物のみです。それ以外のものを入れることは認めません。(ジャージなど)
- (2) 交換用のラケットは必ず用意してください。ガットが切れた状態のラケットで試合をすることは認められません。また、ラケットを取りにコートを離れることも認められません。
- (3) スクイズボトルなど、倒れてもこぼれない容器でカゴの中に入れてください。

12. 進行について

- (1) 状況に応じてコートや競技開始時間を変更することがあります。
- (2) コールされてから5分以内にコートに入らない場合は棄権と見なすことがあります。試合のコールを注意して聞いて下さい。

13. その他

- (1) うちわや鳴り物、メガホン等を使つての応援は禁止します。また、野次を飛ばすことなく、拍手やかけ声等で節度のある応援をしてください。

レフェリーから競技審判上の確認と連絡

本大会は、2019年度（公財）日本バドミントン協会が定める競技規則、大会運営規程、公認審判員規程、および各連盟の申し合わせ事項にのっとり運営します。特に、以下のことに注意して下さい。

<競技規則>

1 サービス（第9条）

1-(1) サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。

1-(2) サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点がサービスの始まりで、サーバーのラケットヘッドの前方への初めての動きを不当に遅らせてはならない。

1-(6) サーバーのラケットで打たれる瞬間にシャトル全体がコート面から1.15m以下でなければならない。（シャフトが下向きでなくてもフォルトではない。）※2019年4月1日より

2 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則（第16条）

3 **プレーの中断** 主審が認めた場合、あるいはレフェリーが主審に指示した場合。

4 **プレーの遅延** プレーヤーはどんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはならない。

5 アドバイスとコートを離れることに関して

(1) シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーはマッチ中、アドバイスを受けることができる。（大会運営規程第25条参照）

(2) プレーヤーはインターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。（ただしラリー中にコートサイドのラケットと交換しても構わない。）

7 **違反に対する処置** (1)① 警告(イエロカード) (2)③ フォルト(レッドカード) (2) 失格

<大会運営規程>

3 服装については、第23条によるものとする。また、社会人・大学生は所属名、高校生は学校名、小中学生は所属名と氏名の背面表示またはゼッケン(4点留め)をすること。その際、文字列各行の高さは6～10cm、横30cm以内とする。（第24条参照、但し2019/4/1一部改訂）

4 個人戦において試合を棄権した選手は、それより後の同大会でエントリーしている種目全てにおいて出場できない。但しレフェリーによって認められた場合はその限りではない。

5 審判員の判定に対して疑問がある場合は、次のサービスがなされる前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り「質問」が認められる。（第36条）

6 競技進行の都合で、試合時間やコートを変更する場合がある。（付録2-1参照）

7 表彰式には原則として第1位～第3位まで、競技終了後の閉会式で行うものとするが、帰郷時間、交通事情等でやむを得ない理由がある場合、閉会式前に授与を行う場合がある。しかし、少なくとも第2位までは開催地に配慮して閉会式に参加することを義務づける。（付録1参照）

<公認審判員規程>

8 試合中の注意事項（第3条）

6-(7) インターバルではどちらのサイドも同時に2人までコートに入ってきてよい。その際、主審が「…コート20秒」とコールしたらコートを離れるものとする。

9-(5) プレーヤーが線審に影響を及ぼすまたは脅迫しようとする行為は不品行な振舞いと判断する。

9-(6) プレーヤーが故意に、自分の汗でコートやその周辺を汚した時は不品行な振舞いと判断する。

9-(7) ラリー後の激しい行為(握った拳をあげる、相手に向かって叫ぶ)は不品行な振舞いと判断する。

12-(2) コーチはマッチにふさわしい服装でのぞむこと。（運動靴、長ズボン、チームユニフォーム等）

12-(3) コーチは許可されたインターバルの間を除き、指定された椅子に着席するものとし、マッチ中、コートのそばに立ってはいけない。

12-(6) コーチはマッチ中、連絡やコーチングのためにモバイル機器を使用してはならない。

12-(7) コーチによりプレーが混乱させられた場合は、レットとし、レフェリーが警告する。

14 マッチ中にケガや事故が生じた場合は、主審の判断によりマッチを中断する。その際レフェリーが呼ばれた場合、その判断に従うこと。出血の場合、止まるまで再開を遅らせる。

15 マッチ中、コート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った時は不品行な振舞いと判断する。